

大野市小中学校再編計画（案）説明会開催結果概要

日 時 令和3年6月19日（土）午後7時05分～8時55分
場 所 阪谷小学校 体育館
出席者 阪谷小学校区住民 7名
教育長、教育委員会事務局長、教育総務課長、学校教育審議監
教育総務課職員3名

顛 末

①教育長あいさつ

②大野市小中学校再編計画（案）の説明（資料に基づき説明）

③質疑応答

参加者 通学路だが、スクールバスが乗車できるのが4 kmか6 kmと記載されている。これを今後協議していくと説明を受けたが、これは4 km未満、6 km未満の子どもは乗せてもらえないということか。再編すると環境が変化するため、今までのように歩きで帰ることができた状況から、遠くて歩きでは帰ることができなくなる。親も毎日送り迎えできる訳ではない。スクールバスに乗れない場合は、どこにどういう相談をしたら良いのか。私が聞きたいのは、スクールバスに乗れる解釈で今日帰って良いのかということ。

市教委 スクールバスの4 km、6 kmというのは、あくまで目安であって、保護者の意向を十分にお聞きし、スクールバスのルートや全員乗るかどうかなども含めて協議していきたい。

参加者 協議はしていただきたいのはもちろんだが、その協議の進め方である。乗せてもらえる子に協議するのか、この数字が決まっているため乗せることができないという協議なのか。

市教委 この4 km、6 kmで線を引くということではない。現在走行しているスクールバスだが、小学校で4 km未満の距離でも乗車して登校しているケースもあるし、中学校で6 km未満の場合もある。保護者の意見をお聞きしながら決めていきたいと思う。

参加者 それはありがたいことだが、それはその時だけではなく、小学校なら6年間、中学校なら3年間乗せていただけるという解釈で良いか。

市教委 最初にそのように決めさせていただいたら、当然小学校6年間、中学校3年間になると思う。

参加者 これは、教育委員会が決めるのか。議会が決めるのか。議会の承認なくしてこの数字は変えることができるのか。

市教委 児童生徒が乗るか乗らないかについては、準備委員会の中で保護者の方

と学校の代表、教育委員会とで協議をして、どのような範囲で乗るかをまず決めていく。実際に運行し始めると、ルートが変わったり、児童生徒がいる集落が変わったりする可能性があるため、保護者の方と学校とで協議し毎年決めていくことになる。

参加者 相談事によっては、市で適応力があって変えることができるということ
で帰っても良いか。そうじゃないと若い子が家に残るか残らないかにかか
ってくる。地域の衰退に繋がってくる。

市教委 資料に書いてある4 kmや6 kmの距離は、国の考え方である。昨日も
保護者の方から話があったが、例えば松丸は富田小学校まで距離はあまり
ないが、坂もあり、特に冬場は車が雪を跳ねることがあるので、状況に合
わせ子どもや保護者の不安解消になるように進めさせていただく。あくま
で参考の数字であることをご理解いただきたい。

参加者 この距離を変えようと思うと、議会の承認が必要になるのか。

市教委 議会の承認は必要ない。

参加者 市と相談するのか、学校と相談するのか。

市教委 乾側小学校を例に挙げると、再編までの間に、地区の方や各団体の方、
保護者の方といろいろなことを決めてきた。この計画でいくとなったら、
その時にもう一度話し合いということになる。距離が近くても冬場に危険
となれば、対応を取っていかなければいけないと思っている。

参加者 以前の計画の際に、通学路のコースとして三つほど示されたと思う。そ
の時阪谷は全て対象となって三つの中に必ず全員が入っていた。それが今
回は決まっていなくて、全く新しいものになるのか知りたい。

市教委 今は白紙の状態を進めている。こちらからこれをお願いするということ
ではなく、一緒になり良い方向になるよう決めさせていただきたいと思う。

参加者 全員がスクールバスが乗れるように、ぜひ手配をしてもらいたい。

参加者 スクールバスだが、説明会では良いことを言って、実際動き始めたら予
算上や距離上の問題と言って、乗せられないという問題がでてくる可能性
があると思っている。それなら阪谷は全員スクールバスを利用するという
形、利用しない方は利用しないでも良いが、基本は利用するという形に持
っていけば、誰も不安がない。それを文部科学省が4 km、6 kmだと示
すから、保護者はとても不安になる。子どもたちが通学するというのは平
等に受けている権利で、通学しやすくするというの私たちの使命だと思
っている。これによって少しでも足かせとなり、学校に行けない、行きた
くないということを再編によって作ってはいけないと思う。誰もが行きや
すい、誰もが通いやすいという形を必ず作っていただきたい。それを約束
していただければ、阪谷の方はそこに対する不安はないと思う。曖昧に努

力する、話し合いををすると言うから不安があって、何かあったら裏切られるかもしれない。予算が無いから、時間が無いからと言われるから不安なのだと思う。学校が地区から無くなるというのは、地区の衰退である。日中、声も聞こえなくなる。放課後は子ども教室にくるかもしれないが、それでもその時間帯というのはわずかである。そういうことを考えると、この段階から必ずスクールバスは運行するということを約束していただきたい。それはお願いしたい。曖昧な返事ほど後でひっくり返る可能性は大である。そのため強く希望する。

市教委

今年度4月1日から乾側小学校が下庄小学校に統合された。乾側小学校の子は、全員スクールバスで登校している。乾側地区でも4kmより短い距離の児童もいるが、全員乗っている。「自分はバスに乗車しなくても良い」や「バス停はここにしてほしい」など沢山の要望を準備委員会の中で話し合いをする。全員の家に迎えに行くと、時間がかかりすぎてしまい、最初に乗車した児童が長時間乗ってはいけぬ。それならバス停を決めよう。これもやはり準備委員会の中で決定する。保護者の代表であるPTAの会長、副会長もいるため、その準備委員会の段階の中で決めていくという意味で言わせていただいていた。そこは非常に心配をお掛けしたが、登下校の不安は絶対に解消して行かなければいけないと思っているので、しっかり対応していきたいと思う。

参加者

公民館機能の強化と地域との連携という所がある。新しい学校になってもふるさとを知り、ふるさとを創るという点からで、学校でふるさとを知る機会を設けるのか、子ども教室の中でするのか、両方でするのか。富田地区に行ってしまうと、学校自体が阪谷地区ではなくなってしまう。その中で、阪谷を知ることがどんどん少なくなっていく可能性があるもので、大いに取り入れていただきたいと思う。富田地区の子からすると阪谷のことを複合的に知る学習はとても大事なことは思うが、そのあたりの兼ね合いはどのように考えているのか。今の段階で構想を持っているのか。

市教委

二つの観点がある。一つ目は、学校の観点である。富田小学校は蕨生小学校と統合している。統合した時に蕨生地区で始まった子ども里神楽をクラブ活動の時間に一緒にやってみるなどの活動があった。統合の際は、蕨生校区、森目校区、富田校区は全て富田小学校の校区になった。阪谷小学校が富田小学校に統合になれば、阪谷地区も富田小学校の校区になる。総合的な学習の中で、ふるさとを学ぶ学習をする時に、校区が広がるので全てのことを学ぶことは難しいかもしれない。ただ、それに関しては、例えばグループ学習で学んでいく。例えば、阪谷地区の岩のことを学習する際、他の地区の子も入って学習していく。それが学校の新しい校区になっ

た時の新しい学びとなってくると思う。

二つ目の観点は、放課後子ども教室である。学校と地区のコミュニティで子どもを育てていくという観点で、子どもがふるさとを学ぶというこれからの在り方だと思う。少子化が進んでいく中で、地域コミュニティと学校コミュニティが一つになって子どもを育てていくという在り方に今後なっていく。教育委員会もその点では応援させていただきたいと思っている。

参加者
市教委

再編した際に、校歌や学校名はそのまま使うということか。

結論から申し上げますと、今回の再編では富田小学校の校名をそのまま使わせていただきたい。尚徳中学校も陽明中学校の校名を使わせていただきたいというのが結論である。先ほど段階的な再編を申し上げたが、10年後のことを考えると、2段階目の再編が必要になってくるだろう。大野市の今後50年、100年を見越した最終形になるのではなかろうかと思う。そうなった際は、中学校なら1校体制を取るのか、2校体制を維持するののかの大きい判断が求められると思う。小学校も今の7校のままで良いのかというとなかなかそうもいかない。それが2段階目となり、考えなければならない。その時には、校歌や校名、校章なども変更するなどしっかり考えていかなければいけないと思っている。

参加者

逆に、2段階目の再編を考えているということなら、思い切って校歌を一つにしてしまえばいいのではないか。私の希望だが、先々を見越し、もう今回で決めてしまっって、大野市全体の校歌として小学校、中学校作っってしまうと、再編するに当たって、子どもたちが新たな気持ちで入っていきえると思う。富田小学校の校名や校歌を使うということは、阪谷の子にとっては、なんとなく外から入った子という感じがして、心に寂しさが残ると思う。それは5、6年して全員が富田小学校からスタートとなれば、それほどないのかもしれないが、最初に入る子どもの気持ちをととても大事にしていかないといけない。慣れない環境の中で初めて入っていくということになるためだ。そう思うと先々を見越してこういう考えもあるのかなと。最終段階で校歌を作るというのも有りだが。ただ、校歌がこういう形でいいのかは分からないので自分の意見である。大野人としての考えを持った校歌を入れるのであれば、それでも有りかなと思う。

市教委

そういった考え方も理解できる。ただ、2段階目の再編も可能性の話である。現在でも、1年間でタブレットを全員に整備するという時代である。また、小学校で英語を学ぶという時代で、はっきり申し上げて、10年後にどういう社会になっているか、あるいはどういうことが学校に求められるかということは、なかなか予想するのは難しい。可能性の問題として、次の再編も考えないといけないのではないかという（案）になっている。

今それを見越して、大野市で一つの校歌にすることは少し無理があるかと思う。中学校の話で、尚徳中学校の「尚」は尊ぶ、「徳」は道德の徳で、道徳を尊ぶ教育を進めようという意味で、地域性を無くしている。開成中学校も陽明中学校も同じで、50年前に地域性を無くして大野市が目指す教育の象徴とした名前になっている。そしてそういう校歌になっている。そのような理解をしているため、校名や校歌は大切に考えていく必要がある。

我々の中でも富田小学校は新生富田小学校となるべきと思っている。保護者の方と話をしても、ナップランドや体操服は富田小学校に合わせなければいけないのかということがあった。決してそうではないと思っている。体操服の色を新しく変えても良いと思うし、ナップランドの色も阪谷小学校のように自由に色を選んでスタートするというだけでも良いと思う。新しい学校ということで学校同士が話し合っ、そして教育内容についても広く全員が学ぶことができるように、そんな学校にしていきたいと思う。今回については、校名等はそのまま使用し、本質については、しっかり吟味していきたい。

参加者

平成15年に阪谷小学校と六呂師小学校が統合した際に、その後に富田小学校なども順番に統合される予定だったのに、阪谷が先頭を切ってそのあと誰もついてこなかった。はぐらかされたような感じになっている。富田小学校に統合するとなると、何か阪谷が富田に頭を下げて、しかも吸収合併みたいな形になってしまう。富田は何もしなくて良い、お金も出さなくて良いという感じになってしまう。これでは、阪谷に不利が押し付けられているような感じになってしまう。せめて統合となったときに、校名を変えるなどしたほうが、後々やりやすいと思う。新しい校区ができる訳なので、新しい名称をぜひ考えていただきたい。今から中部縦貫自動車道もつながって、中京圏から人も入ってくるようになって、人口が増加すると思う。そうやってきたときに、この統合が足かせとなる。

この計画で、この阪谷小学校の建物を使わないのか。尚徳中学校を使わないのか。この建物を使うことによって、経済が動く。お金が動く。単なる直線距離で考えるのではなく、そういったことも考えて、見直しできると思う。阪谷小学校に富田小学校の子が来ても良いと思う。六呂師に集めても良いと思う。町ばかりでなく、人が散らばって、面積が広がっていく。

市教委

小さい学校が大きい学校に吸収されるという訳ではない。お気持ちはわかる。今言われた意見が、阪谷地区で大きくなるようであれば、我々としても考えなければいけないと思う。ただ、今まで積み上げた計画とすると、先ほど申し上げた趣旨でお願いできないかということになる。

富田小学校の子が阪谷、六呂師に行っても良いと思う。校舎の建築年数

の問題が一番にあるが、富田小学校は新しい校舎なので十分活用できると良いという気持ちはある。

参加者 阪谷小学校も耐震改修すれば、十分持つ範囲であるし、校庭の面積も広い。その方が、経済も潤うのではないか。地域の発展にもつながる。

市教委 その問題は、どの地区、どの県でも時間がかかっている。大野市も決して無駄な時間を過ごしてきた訳ではない。その中で、皆さんが納得できる計画に仕立て上げるかは、我々の責任である。その辺を考えて、この2、3年丁寧に進めさせていただいた。そして、今言われることを十分に理解した上で、最終的にこういう形ではいかがかという提案である。

参加者 再編準備委員会はいつ頃立ち上げるのか。

市教委 結論から申し上げますと、今年計画（案）を計画にさせていただいたら、なるべく早くと思っている。ただし、まずは中学校を先に進めていかなければいけないため、小学校については、中学校の統合が終わった時の令和6年度になる。ただ、準備委員会をその年に立ち上げるにしても、学用品や体操服についていろいろ合意して進められるものに関しては、なるべく早く学校間やPTA間で相談することはできるのではないかと。そういった話はしていく。

参加者 かなり不安な面や要望がたくさんあるため、準備委員会などでそういった気持ちもくみ取っていただきながら、慎重に丁寧に進めていただきたい。

市教委 中学校は専門教科の教員がそろった環境にしたいということ、部活動も選択肢を増やしてあげたいということで、なるべく早く準備委員会を設立して、また、その後に小学校ということで、長い間協議はさせていただく期間があると思っている。

参加者 以前の計画は、白紙に戻すなどのことがあったと思うが、この計画は、自分の感じ方として、もう進めていくという理解で良いか。

市教委 3年前に市長も教育委員会も、1中2小の計画を見直そうという話をした。その時に教育委員会の基本的な方針としては、学校再編は何らかの形で必要である、子どもたちの教育を考えると、ある一定の規模の集団というのは必要であるという基本的な考え方があるため、再編については、進めさせていただきたいということである。

参加者 以前会場に来られた人も、反対という意見ばかりであった。最近、市議会の傍聴に行っても、反対という意見は見受けられない。自分としては、そういう反対という意見はほとんど無くなったと感じるが、どうか。

市教委 議会については、今の教育委員会の方針について、概ね理解を得られていると思っている。

一昨年は大野市41カ所で意見をお聞きさせていただいた。その中で出

た話を、教育委員会でまとめて再編検討委員会で提案をさせていただいた。傍聴の公開や議事録の公表もした。本日も会場に来られない方にライブ配信している。このように再編がどうやって進んできたか、市民の皆さんになるべく分かりやすいように、一つ一つ積み上げてきたので、その当時反対されていた方にも、理解いただけているのかと思う。

参加者 以前は統廃合をするかしないかという話の時に出席していたが、今はその話は済んでいて、形としてどう再編するかという話になっている。それについて、反対も賛成もする訳ではないが、何か意見をということで述べさせていただいた。

市教委 保護者とも2回話をさせていただいたが、スクールバスのこと、放課後子ども教室のこと、学用品のことなど、これから次に進めて行くため、どのように具体的に阪谷の子たちのために考えていくと良いのかという視点で話を進めていただいたので、ありがたい。一つ一つ丁寧に対応していきたいと思う。

参加者 自分が六呂師出身で、六呂師小学校がなくなった時は非常に寂しかった。阪谷小学校も富田小学校に統合されるのも寂しい。放課後子ども教室で子どもたちはとても賑やかである。学校も近くて、先生もきめ細かい教育をされていると思う。少し居残りをする際も、電話で少し遅れると連絡がある。富田小学校に行ってしまうと、阪谷の子はスクールバスの時間が決まっているので、早く学校を出なければいけないようになる。先生が子どもにもう少し教えたいとなった時でも、バスが来るからまあ良いかなれば、阪谷の子には不利になると思う。そこら辺も確認していただいて、阪谷の子に不公平感が無いように考えていただきたいと思う。忘れ物をしても、すぐには取りに行けなくなるので、その辺りも細かく指導していただきたいと思う。

市教委 いつも子どもたちがお世話になっていてありがたい。自分も50年前再編の渦中にいた。その時の自分が心配したこと、心細かったことも胸に秘めている。阪谷の子が決して不利にならないようにさせていただく。教員も子どもたちを平等に見る。決して寂しい思いをすることがないと思っていただければと思う。忘れ物の話だが、富田小学校に行ったら、なかなか取りに帰ることができなくなる。そうしたら、子どもは忘れ物をしないようにするにはどうしたらよいのか考える。次は絶対しないというような成長がある。ある一定の集団ということや校区が広くなるということは、寂しいことはあるが、鍛えるという観点からは、少し手を放してあげることも必要だと思う。それは、当然愛情を持ってという話であるが。

参加者 今話を聞きながら、どうして再編にこんなに寂しさがあるのかと考えた

時に、また、子どもたちにかかることを残しておきたいと考えた時に、学校が無くなるということはマイナスになる。教育という面からは大事だと思うが、心を育てるといふ地域のふるさと愛を残していきたい。それは、大人の責任だと思う。気付けば阪谷地区が無くなっているということがあってはいけないと、心の中で思っている。再編することで、何によって阪谷に人が集まるのか、行政に考えてほしい。

市教委 今年、市の大きい変革として、地域づくり部という組織ができた。公民館を地域の核とするため、公民館の所管を教育委員会から地域づくり部に移した。非常に重い課題ではあるが、本当に行政として力を入れてやっているように思っている。行政が何をしてくれるというのではなく、住民と一緒に考えていかなければならない。

参加者 保護者の負担軽減の学用品購入支援の所だが、体操服などを買い替えなければいけないのは阪谷の子なのに、3年生から5年生は補助が半分になるのか。

市教委 10分の10と10分の5の違いだが、統合の年に2年生になる子は、前の学校の学用品を1年しか着ていない、そして6年生の子は、新しい学用品を1年しか着ることがないということで、全額補助になっている。3年生から5年生になる児童については、少なくとも2年間は新しい学用品を着るまたは統合前の物を着るということで10分の5という違いを設けている。これについては、これまでの森目小学校、蕨生小学校、乾側小学校について適用している。

参加者 3年生の子たちは、阪谷の体操服を着ていても良いということか。

市教委 これは、あくまで買い替えるという時の補助の基準である。保護者の方ともお話をさせていただいた中で、そのまま阪谷小学校の物を着ていても良いのではないかと話した。ある時期に富田小学校と阪谷小学校と違う物を使う時期があるかもしれない。そのように個性が生きるような、お互いを認め合えるような学校にしていきたいと思う。

参加者 必ず富田小学校の物を着なくても良いということか。

市教委 そうである。

参加者 準備委員会で、今出た意見を言っていただけなのか。この会場だけで話が終わらないか。

市教委 ここ2、3年やってきていることは、すべて公開している。ライブ配信もしていて記録は残る。「こんなことは言っていなかった」という風にはならないので安心してほしい。皆さんとの信頼関係の基に進めていきたいと思っている。

参加者 この再編は、全学年まとめて再編ということによろしいか。

市教委 それは、学校まとめてである。

④閉会のあいさつ（事務局長）